

令和 6 年度岐南町・笠松町総合教育会議 議事要旨

令和 6 年 5 月 2 0 日 (月) 午前 1 0 時 3 0 分から、岐南町中央公民館 学習室で開催した。
その要旨は次のとおりである。

1 出席者

岐南町長	後 藤 友 紀		
笠松町長	古 田 聖 人		
教育長	野 原 弘 康		
教育委員	羽田野 正 史	教育委員	西 雅 代
教育委員	岩 井 弘 榮	教育委員	久 納 万里子
岐南町副町長	傍 島 敬 隆	笠松町副町長	村 井 隆 文
＜羽島郡二町教育委員会＞			
総務課長	岩 田 由 美	学校教育課長	宮 川 浩 司
社会教育課長	藤 枝 豊 和		
＜笠松町＞			
教育文化部長	天 野 富 三	教育文化課長	赤 塚 暢 子
＜岐南町＞			
住民部長	小野木 崇 夫	生涯教育課長	大 屋 典 央
生涯教育課主査	神 谷 里 衣		

2 次第

(1) あいさつ (岐南町長 笠松町長)

(2) 議題

- ・羽島郡二町 教育大綱ならびに第 4 次教育振興基本計画
(二町教育委員会)
- ・これからの ICT 教育の推進に向けて (二町教育委員会)
- ・意見交換

(1 0 時 3 0 分開会)

○事務局 生涯教育課長

皆さんおはようございます。

ただいまから令和 6 年度岐南町・笠松町総合教育会議を開催させていただきます。

本日はお忙しいところ、本会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。本日司

会進行を務めさせていただきます、私、岐南町役場生涯教育課長大屋と申します。よろしくお願いいたします。

皆様のご協力によりまして円滑に会議進行ができますよう努めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

これより着座にて進行させていただきます。本日ご出席の皆様のご紹介ですが、出席者名簿、名札にてご紹介に代えさせていただきます。会議中に広報用の写真撮影をさせていただきますこと、また、議事録作成のためにボイスレコーダーにて録音しますことをご了承お願いいたします。それではお手元の次第に沿って進めて参りたいと思います。

初めに笠松町長様から、ご挨拶をいただきます。

○笠松町長

皆さんおはようございます。今年度も始まって、二月近くがたちました。役場、学校教育、現場も、ようやく少し落ち着いて、方向性が見えてきたのではないかと思います。二町の教育大綱を見ましたところ、将来像として、VUCAという言葉が出てきます。最近よく耳にするわけでありますが、まさしく、今の日本や世界がもう不確定要素にまみれて何が起きてもおかしくないような時代であります。そうした流れを受けたわけではないかもしれませんが、ここのところ世の中がどうも揺らいでいるというか、土台がギシギシ音をたてて揺れ動いている、そんな感じがするわけです。とりわけですね、子どもたちが、私も間接的ではありますが、何か何となく漠然としたその不安、子どもに限らず、社会、保護者もそうなのですが、不安と将来に対して先行きが見えない、そのようなものが今の日本の社会全体を覆っているような気がします。特に学校の先生方はそういったことをひしひしと感じつつ、子どもやその向こうにいる保護者そして地域の皆さんと向き合っているのではないかと思います。

今日は教育大綱とICTの教育ということでありますが、はっきり申し上げまして現場のことは、先生方にお任せすべきだと思っています。一番よくわかっている現場の先生、そして教育委員会の皆さんが良いと思うことをやっていただければ、私はいいと思います。今実際、政治に携わる者が非常に大きな批判を浴びているのは、これは世の中の空気、時代に適していないから色々な問題が起きている。ですので、そういったものを我々、こういう政治、行政に携わる者というのは口に挟まないほうがいいのではないかと思います。

ただ一つ、皆さん方をお願いしたいのは、これからの子どもたち、今VUCAの話は言いましたが、人間力というか、生きる力、非認知能力とも言いますが、そういったものも大事にしていきたい。学力とか、体力づくりは重要ですが、その根底にある人間思いやりの気持ちとか、困難に立ち向かう勇気とかそういったものが今の社会には、ちょっと欠けている。それが不寛容に繋がったり、二項対立で、自分以外の正義は違うのだというそういう排除の議論が働いている。特にSNS上とか、今のマスコミのそういう報道を見ますと昨日も静岡県の知事選で大臣が失言したって言いますが、確かに失言かもしれませんが、何かそう

いうあらを探して社会全体にちょっとしたミスとか、自分たちと違うような考えを持った人を排除したり、先日の東京15区の選挙もそうですが、言論を封鎖するような空気感が非常に漂っていることに対して私個人的な危機感を持っています。

そして、そういう報道やSNSや世論の動きを見て子どもたちが変に影響されるのではないかという危機感も抱いているわけであります。そしてその矢面に立っているのは先生方ではないかと思っています。今、細かいことは学校側には申しませんが、ただ一つ、深く憂慮していることは現場の先生たちを守る、先生方が常にモチベーションを持って教職に誇りを感じるような、そういった環境づくりを我々はしていかなければいけないのではないかなと思っています。

ともすると、子どもたち以外の保護者であるとかそれを取り巻く世間の風当たりがすぐ学校や、教育委員会、行政に向けられます。もちろんミスをしたときは素直に謝らなきゃいけないと思いますが、ただ一方で、何かの不満のはけ口みたいに、向いている。そういったことを私自身もひしひしと感じていますし、先生方もそういうふうにいると思います。どうか先生、現場の特に若い先生たちが心折れないように、今ただでさえ教員不足で中央教育審議会ですらいろいろ出ていますが、そういったことも大事かもしれませんが、待遇や働き方改革、まずは皆さん方がちゃんと自分の現場の先生がやろうとしていることが、間違っていない、正しいのだと思って信念をもってできるような後ろ楯になっていただくような教育界や教育委員会や我々行政がバックアップし、むしろ手伝ってあげる、そういった教育が羽島郡にとって長い目で見た場合、子どもたちや保護者や地域の皆さんにとっても、納得のいく満足のいく教育になっていくのではないかというふうに思っています。

私自身そういった思いで、皆さんと一緒にこれはどんな組織でもそうですが、現場の人を大事にする、そしてイコール子どもたちを大事にする環境に繋がっていくと思いますので、どうか皆さん方から忌憚のないご意見を賜りまして羽島郡の教育の充実に尽くしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○事務局 生涯教育課長

ありがとうございました。

それでは本日の議題に入らせていただきます。

まず初めに昨年度策定いたしました、羽島郡二町教育大綱並びに第4次教育振興基本計画につきまして、羽島郡二町教育委員会教育長よりご説明をお願いいたします。

○羽島郡二町教育長

失礼します。説明に入る前に古田町長さんにはお礼を言わなきゃいけないですね。本当に今の力強く、非常に教育について、後押しをしていただけるお言葉をいただきまして本当にありがとうございます。勇気がますます湧いてきました。

説明略（別紙 羽島郡二町 教育大綱ならびに第4次教育振興基本計画 参照）

○事務局 生涯教育課長

ありがとうございました。

ただいま羽島郡二町教育大綱並びに第4、教育振興基本計画につきまして、野原教育長からご説明がございました。教育大綱の策定につきましては総合教育会議にて行うこととあります。昨年度より皆様からいただきましたご意見等を踏まえて策定しました、この羽島郡二町教育大綱を両町の教育大綱としてご承認いただきますようよろしくお願いいたします。

それでは岐南町長が到着されましたので、ここでご挨拶をいただきます。

○岐南町長

おはようございます。遅れまして大変申し訳ございませんでした。改めまして、岐南町長後藤友紀でございます。

今後とも皆さんとともに子ども達の地域環境については、しっかりと努めて参りたいと思いますので、どうかよろしくお願いをいたします。後から私の思いはお話する機会をいただいておりますので引き続きまた申し上げます。よろしくお願いいたします。

○事務局 生涯教育課長

ありがとうございました。続きまして、議題の2つ目にあります、「これからのICT教育の推進に向けて」学校教育課ICT支援専門員林様よりご説明をお願いいたします。

○ICT専門員

今年3月に、教職を退職しまして、4月より羽島郡二町教育委員会に、ICT支援専門員として任用いただきました。郡内の小中学校のICT活用を支援する職を拝命しましたので、大変やりがいを感じさせていただいております。

説明略（別紙 ICT活用による教育改革参照）

○事務局 生涯教育課長

先生ありがとうございました。

それでは意見交換に入りたいと思います。只今の教育委員会からの説明に関しましてご意見を伺いたいと思います。ICT教育に関係することだけでなく町の教育への願い、思いなど各委員の皆様方から順にご意見をお伺いできればと思っております。はじめに羽田野教育委員さん、よろしくお願いいたします。

○羽田野教育委員

よろしくお願いします。

I C T教育を進めるにあたって、アクションプランで回線の速さに問題がある、やはりお金がかかるということで先ほどの説明のときにも出てきましたが、ぜひお金について両町で工面していただきまして、適正なスピードで対応できるようなそういった環境づくりということがI C T教育には是非必要だと思います。

昨年度ですが代々木公園でそういう研修があったので行って参りまして本当に無茶苦茶進んでいるなということもわかっています。そういう中で、色々な機器が売りだされていることもあり、そういったものはお金があればどんどん購入していただければと思うのです。林先生のご意見を尊重しながら、ぜひ進めていただけたらと思っています。

以上です。

○事務局 生涯教育課長

ありがとうございます。

続きまして西委員さん、よろしくお願いいたします。

○西教育委員

I C Tを活用することになって、授業で他者との情報交換や発表や課題定義などがスムーズにできるようになって、授業が円滑に進むことや、教師の働き方改革に繋がっている良い点がとてもあると思いますが、その反面、先日中学校に授業参観に行ったのですが、そこで息子のクラスは国語で季語を使って俳句を作ろうという授業だったのですが、季節を想像する時間について私たちのときでも想像しましょうと言っても、こういう季節はこういう花が咲いていたな、こういう色があったなとか自分で想像していたのですが、今は「はい、調べましょう」って、タブレットでもうすぐ季語を調べてというものでした。多少は考える時間もあったと思いますが。だから、想像したり考えたりする力が、課題になってくるとすごく感じました。そこがまた、笠松町長さんもおっしゃったとおり自分の想像する力、想像力、自分の考え、感情が、人間力とか生きる力に私は繋がると思うので、そちらの方も考えていって欲しいと思います。I C Tが進むことはとても歓迎ですけど、そちらの方も忘れないでいて欲しいとすごく授業参加で感じました。

○事務局 生涯教育課長

ありがとうございます。

続きまして岩井委員さん、よろしくお願いいたします。

○岩井教育委員

林先生のプレゼンテーション、どちらかというとハード、システム、ネットワークそういったものに対する一層のレベルアップを図るという話だったと思うのですが、ちょっと視点を変えたお話と言いますか、私の思っていることを少しお話できたらなと思っています。そもそもGIGAスクール構想っていうのは、本当は個々人の差をつけない、差を縮めようとする動きだったはずなのです。個別最適な学びだとか、誰一人取り残さないというのがキャッチフレーズにあったと思う。ところがやってみると結構差がついてしまったというのが実態じゃないかなと思います。このままで行くと、とんでもない差がついちゃう。本来狙っていた逆、違うところへ行ってしまう心配をしております。林先生の問題意識の根底にはそういった部分があるのではないかなと思っています。

それと、どうしてもこれから私考えなきゃいけないのは、AIの問題だろうと思うのです。皆さん方も既に触れたことあると思うのですが、今回出たChatGPTの新しいバージョンを見るととんでもない能力があるわけです。多分学びも教えるも根底から覆しちゃうようなことができちゃいます。もちろん前提は先ほどあったハード面の整備というのがあると思うのですが、これ大変大きな話だろうと思うのです。そうすると今までの学ぶ、教えると言ったのが根底から変わってくる。そこでその学びが学校現場で行われるのかっていうのはこれから早急に考えなきゃいかん課題かなの一つと思っています。

それと今回話題になっていませんけれども、不登校の問題等々を考えると、Well-beingはどう高めていくのだろう、子どもたちもそうですし学校の先生もそうですし、家庭の個人もそうだろうと思うのです。やはり身体的、精神的、社会的にいい状態っていうことをよりレベルアップしていかないといけないだろうと。企業でも同じなのですけれども、そういう取り組みをやっていかなくてはいけない。ではそういう時ってどうすればいいのかいうと、多分単なるそれは学校教育っていう狭い範囲の問題だけでは済まないと思います。まちづくりだとか、地域との関わり合いだとか、そういったいろんな面の複合的なことだろうと思います。それと文科省の教育振興計画の新しいものに日本の社会にあるとするWell-beingの仕様みたいなものを定義していたと思うのですが色々な要素があります。そういうことであれば、Well-beingを高めるということは、行政そのものが色々な問題を連携してやってかないと駄目だということだろうと思います。単なる教育問題だけだとか学校現場の問題だけではなかなか難しい時代に来ているからこんなふうに思っております。だからそういうことも含めて、今日は教育者の方が中心でありますけれども、今日は町を挙げて是非ともお願いしたいとそんなふうに思います。

○事務局 生涯教育課長

ありがとうございます。

続きまして久納委員さん、よろしくお願いいたします。

○久納教育委員

笠松町の久納です。

今よく新聞等で話題になるのは不登校対策とか学校に行けない子の居場所づくりっていうことが話題になっていまして、すごく大事なことだと思うのですが、教育委員会の人をお願いしたいのは、まず学校現場での学校教育の充実という大元はぶれないでいただきたいと思います。

それにおいては先ほど林先生が説明されたように、ICTの充実は不可欠なものだと思うので、ぜひ進めていただきたいと思います。

その一方で、コロナの期間が3年4年もあったので、今の小学生の子たちは、リアルな実体験、体験を伴った学びという機会がすごく少なかったと思うのです。できましたら町の方には笠松町でいうと日高への研修とか、今年は志摩の研修があるみたいですが、そういう機会を沢山子どもたちに作っていただけると、そういう実体験で得られたことが子どもたちにとっては、自分で生きる力、感じ取る力、創造力に繋がっていくと思うので、そういう体験を作って欲しいと思います。できれば国際交流が今少し少なくなっているのも、それに関する企画があればなと思いますがそれはまた色々な両者の関係等で難しいかなと思います。

あとそれから各小学校色々拝見させていただいて、それぞれに笠松小学校では琴とか下羽栗の鼓笛とかその学校独自の引き継いできた文化があるので、それをまた二町においても町の中でも披露する機会とかを作っていただけると、それが子どもたちの自分の母校に対する誇りというか自尊を養うことにもなると思うので、デジタルとかICTは学校の中で充実させるので、実体験を伴った色々な企画を町や行政の方で考えていただけると、相乗効果で子どもたちの色々な力がついてくるのではないかと思いますのでよろしくお願いします。

以上です。

○事務局 生涯教育課長

ありがとうございます。

続きまして村井笠松町副町長様、よろしくお願いします。

○笠松副町長

副町長の村井です。昨年8月から就任いたしまして、この会議に初めて出席をさせていただきます。まず教育現場に対します各委員さんからの意見で行政側の方で支援できる部分は、力強く支援を町長と相談しながら進めて参りたいと思います。

あと本日のテーマのICTの教育については、まずGIGAスクールの方がかなり前倒しで行われて、今度R7年に更新の時期を迎えるということで、先ほど林先生ご説明くださいましたように、走っていく中で色々な課題とか今後解決していく事案が浮き彫りになっ

て洗い出されてきているということで、そのあたりを踏まえながら今後のGIGAスクールということで、子どもたちに対する、そういった教育っていう部分でより深くまた幅広いような形で充実をしていければいいなというふうに思っております。

町長の冒頭の挨拶の方で申し上げましたように、学校現場について私どももこういったような機会で色々お話を聞かせていただいて承知をするわけでございますけども、やはり現場におられます先生方の思いですとか、考えっていうのが最も正しく現場の意見であるということで、現場の先生方の意見とか思いを尊重するような形で色々事業展開をしていただいて、行政としてはそれに向けた支援の方、精一杯させていただくっていうように考えていければと思っておりますので引き続き、現場の方における現場を見据えた、そういった思いを強く推進していただければと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局 生涯教育課長

ありがとうございます。

傍島岐南町副町長、よろしくお願いいたします。

○岐南副町長

岐南の傍島です。よろしくお願いいたします。

私も色々考えておることはあるのですが、先ほど岩井さんもおっしゃられたようにこれからはAIの時代になってきます。ひょっとして学校で知識を教えるっていう部分は、みんなこのICTとかAIの方になってしまうかもしれません。

その一方で対面ととか、人と人の触れ合いとか、子ども同士の触れ合い、グループでの触れ合い、色々なことがありますので、そこは非常に重要な問題になってくると思います。学校の現場で丁寧に仲間外れとかいじめとかが起きにくい、起きないとは言いませんけど起きにくいような環境を作っていただいて人間力を高めていただける教育をしていただけると非常にありがたいかなと思います。先ほどから問題になっております回線の問題につきましては、すぐに改善ということはなかなか難しい面もございます。岐南町と笠松町さんで学校における回線の速度っていうのが違います。方法も違っております。国の方でもNTTの回線がもうすぐ10ギガという回線が来ると思うのですが、そこになれば岐南町も10ギガの方に飛びつくというか、切り換えてくことも考えておるのですが、今のところは1ギガの線しか来ていないということもございまして、近々来ると言いつつもう2、3年来てない状況ですので、そこら辺のことも見据えながら先ほどの来年度のタブレット導入ですか、県の方で統一的に購入していただけると非常にありがたいのですが、またその活用方法につきましても二町の方でよく考えて、使っていただきたいなというふうに思っております。

まず、毎日、子どもさんが家や学校でタブレットを使って、こんなことしましたよっていうことが言えるような環境に早くなっていただきたいなというふうに思っております。

以上です。

○事務局 生涯教育課長

ありがとうございました。

古田笠松町長様お願いいたします。

○笠松町長

色々ありがとうございます。

I C TいわゆるD Xというのは、私いつも思うことは、これは手段であって目的ではないということ、日本ってすぐ目的にしてしまう、G I G Aスクール、タブレット配って先生がパソコンやタブレット、ネットを使った授業をすることが、デジタル化だというように、他にも色々な今の日本のデジタル化、D Xというのは、そういったところがあるので、あくまでもこれはもう教育改革、今ありますように「ため」の手段っていうことを、やはりこれは現場のみならず、我々もしっかり認識していかないといけないなと思います。そしてD Xの最大の今の課題というのは、お金がかかるということでもあります。

その上で、今私が考えているのは、G I G Aスクールだけではなく、自治体D Xと組み合わせて考えていかないといけないなと。つまり我々笠松町でも色々D Xに取り組んでいますが、その目的というのは、標準化いわゆる業務の効率化と、人をできるだけ少なく、そうしてその浮いたお金を教育や福祉にまわしていこうという、そういった大きな流れの中で考えているのですが、今最大のボトルネックは、誰1人取り残さないデジタル社会を目指すと言いつつも、特に高齢者の方を中心に、デジタル化が進むと自分達は取り残されてしまうのではないかと感じていただける方はいいいのですが、一方で、我々年寄りだから、そんなこと関係ないと今までどおりアナログで広報とか事務手続きやってくれという声が非常に根強く、結果的にD Xを進めたら、デジタル化の設備や人員を配置する一方で、従来のアナログの窓口業務をやらなくてはいけないということで、二度手間そしてその分経費も必要となってくる。多分岐南町さんもそうだろうし、全国においてもそうだと思うのです。

そこで先生方をお願いがあるのは、今子どもたち、小中学生はもう既にI C T先駆者です。我々よりもスマホ使いこなしている、タブレットを使いこなしている、もう感覚が違いますので、学校で習ったことをお父さんお母さん特におじいさんおばあさんにL I N Eの使い方とか、スマホに慣れてもらって、「こういうもの便利だよ。」と、「おじいちゃん、L I N Eやってくれと、僕といつでもこうやって写真やりとりできるよ。」とか。例えば手続き、予約などは全部デジタルです。どこ行くにしても。こういうのが当たり前だからということで、地域社会に、子どもたちが先導師として案内役として、D Xを進め、そういう役割を担って欲しいと思います。特に中学生でしたら、今町でもタブレット教室、スマホ教室をやっていますが、そういったときにボランティアとして来てもらって、我々職員が教えると色々、抵抗というか上から目線で言いますが、子どもたちが教えると素直に聞いてくれると思うので、そういったことも一緒になってデジタルを地域との繋がりのためのツールにさせていただくと、スムーズに自治体D Xも進んでいくのではないかと考えておりますので、是

非ともご協力願えたら、この羽島郡全体のデジタル化D Xが進むのではないかというふうに考えていますので、よろしく願いしたいと思います。

○事務局 生涯教育課長

ありがとうございます。

後藤岐南町長、よろしくお願いいたします。

○岐南町長

よろしくお願いいたします。

将来を担う子どもたち一人一人のためにということでI C T活用による教育改革の話、ありがとうございます。私、子どもがまだ中学校におりますけれども、子どもたちの環境を親の立場でみておりますとやはり、社会環境、急激な変化に伴って色々な価値感が存在していると思います。学校を中心として、保護者も含め、地域、教育関係者の方、私共のような町立場で学校を取り巻く価値観が非常に多様になっている。その価値に対応できる、そのような人材教育を学校の方は、推進をしていただいているというふうには思っておりますが、私の願いとしては学校が一人一人の子どものセーフティネットになっていただきたい。学校に行きたいと、学校のことが好きで、先生のことが好きだというように、子ども自身が本当に思ってくれるような学校づくりというのをお願いしたいと思います。やはり色々な環境の中で貧困であったり虐待であったり、不登校であったりそんな課題が山積している中、子どもたちを支えるのはもう家庭だけではなく地域とセカンドプレイスと言われます学校が協力し合って1人の子どもの人生を寄り添いながら伴走していかなければならないというふうに思っています。

先ほど古田町長さんもおっしゃいましたけれども、I C Tってお金をかければ結構環境的には整ってくるというふうに思いますけど、これはあくまでも手段になることなく、しっかりと目的を達成するための手段であるというふうな推進の仕方をしていただきたいと。そして、子どもの声というものに耳を傾けていただいて、子どもはスポンジのように興味関心なることはすぐに吸収して対応する力がありますし、成長期においては、一番大事な期間なのだと思うのですけれどその期間においてはどのような経験をするかということ。私、大人になって振り返ればすごく色々な経験を学校の中でさせていただいて、それで今の自分があるというふうに思っております。だから子どもたちを大切に思えば思うほど、支える立場の学校におられる先生方の環境整備というものもしっかりと整えなければならぬと思っております。もう少し町と現場の学校の先生方の繋がりをしっかりと進めていきながら、現場の声というものをしっかりと町の方で受けとめて、それが結局は子どもたちのためになる。そのような環境を整えて一緒にいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局 生涯教育課長

ありがとうございました。

野原教育長、よろしくお願いいたします。

○教育長

一人一人の貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

全てが一つ一つに価値があるご意見だというふうにとらえさせていただきました。

まとめるというのならまだまとめられませんが根本は、本当に一人一人を大事にして、一人一人をきちんと社会人として成長させていく。その一つの手段として今日今回はICTという切り口で、説明させていただきました。

現場時代のことを思い出したので、少しだけ触れますが、先程の信号機のプログラミング、あれは実は私、川島中時代に技術科の教員でしたので、技術科の学習指導要領にプログラムに入ってくるということで、皆さんは教材作成にいったのだけど、私だけ、別ルートでプログラミングを提供しようと思ってやったのです。そうしたときに画面上で動いても面白くないなと思って、外に出してやろうと色々何かいい方法はないかなと思ったらLEDの信号機があるなと思い、その材料をアメ横まで買いに行って、インターフェース全部で9個、各班用に9個作って、そしてソフトをどうするのだろう、プログラミング後のソフトはない、そういえばExcelはマクロがある、VBAがある、それを使ったら無料でできるぞと思い、実際に日常生活にある信号機のプログラムを作ってみようって形で授業をやったのです。やって上手いかない。プログラミングはそこが面白い。こういうふうにしたらできるだろうと思ってやってみたけど実際その通り動かない。どこが悪いのだと一生懸命プログラミングを見ていく、そしてここだろうと思うので直してもまた動かない。その試行錯誤でだんだんだんだん自分の狙い通りになっていくところに喜びがあって、そこでバーンと実行したときに、思い通りに動いたっていうときの子どもたちの笑顔っていうのは本当に忘れないです。それを見たのは私ですけど。教員としての喜びっていうのはそこに1つあるかなってことを思っていて、今はプログラミングの例ですけども、先生方は教員の魅力、子どもたちの表情、そうしたものがもう充実感に溢れたっていうか、そうしたものが返ってくるようなやはり授業をしたいなということを思うし、それを奪うのは申し訳ないですけども、やろうと思っていたことができないっていう、それが本当に意欲をそぐ。すごく今日は子どもたちの知的好奇心をくすぐらせてやろうと思って、いざ45分から50分の授業に臨む実際にやるぞって言ってやってみたら、動かない、なんだこれって思うのです。教員立場から言うと子どもの満足感1時間がパーです。環境は、確かにお金かかるかもしれないけども、その環境がないとそういうこともやはりできないです。ですからお願いをしたい。学校で一生懸命やっている。林先生は非常に優しくお話しされましたけれど、先生今まで実践を積んだ言葉が、そこの中にあるわけで、本当はもっともっと、遠慮してらっしゃるけどもっと強い言い方ができたと思う。それは子どもたちの満足であるし、子ども、教員の満足

であるし、教員を増やしていく、教員の魅力を伝えていく、そして教育を充実させていく一つのポイントがそこにもあるということをぜひ知っていただきたい、と思っています。そんなことを環境のところから思いました。

あと、西さんが季語のことを調べて想像力とかその辺のことをおっしゃいました。その通りだと僕は思います。一番最初にGIGAスクールが入ってきたときに、確かに推進しなくてはならない。でも、知識は入るけど、感性は身につくのかっていうところ。においか肌触りとか温度とかその辺のところは、感覚として身につくのか。感覚が身につかない以上は、やったって駄目です。人がどう思うかっていうことはそういった感覚からくるものだと僕は思っているんで、だから季語を調べて俳句作りましょうと作っただけでは駄目です。その花がどういうふうに咲いているのかとか、どういうところで咲いている、どういう条件で咲くとか、においはこうなのだ、だからこの言葉がふさわしいのだっていうところまで持てかないと、これは教育の専門性と思う。そういうことを意識した授業をしてもらいたいなと、私は教員に望んでいます。

あと、古田町長様から非常にいいアイデアをいただきました。繋がり、地域と繋がり、これはいいと思います。ぜひ講座の中で小中学校生の子どもたちが講師になってもらえばいいなということを思っています。

あと、脳科学者の茂木健一郎さんの話を東京で聞いてきました。

茂木先生はおっしゃいました。

『これからAIのChatGPT-4oでね、「 $3X+1=4$ 、これについてどう解くの」って言ったら、「じゃあ両辺から同じ数字を引いてみたらどう？」って答えるのですよ。AIが。「1引いたら $3X=3$ です。」「これ、次どうするの？」「同じ数で割ってみたらどう？」「 $X=1$ 」そういうふうに言うのです。そういう時代に、人として何が大事なのだろう。』ということをおっしゃいました。

「人が出来ることは、情報に思いに、そういうものに価値を見いだすこと。価値をきちっと把握をして、選択をするっていう自己決定をするっていう、そこが大事だ。」ということを茂木先生おっしゃっていました。

「AIには価値を決めることができない。確かにデータ上はこういう人が多いとかはそういうことはありますけれども。」そういったことをおっしゃってみえて、本当にその価値に基づいた判断力っていうのは様々で、知識もそうなのだけど人との関わりの中でも当然生まれてくると思う。

今日はICTという切り口でこの場を設けていただきましたけれども、そうした人がいけば効率よく物事を考えて進めていこうとそういう能力を持ちながらも人への思いやりとか温かさとか、そうしたものを持ち合わせた、人づくり、そうしたものはやはり教育っていうのは大事だろうなというふうに思っています。取りとめもない話になりますが、まとめにもなりませんけれども、ぜひ子どもの身になって、このICTってものを考えていただけるとありがたいなと思います。よろしくお願いします。

今日はどうもありがとうございました。

○事務局 生涯教育課長

ありがとうございました。

以上で議題は終了しました。皆様、貴重なご意見いただきありがとうございました。

本日の会議録につきましては、事務局で作成いたしまして、ホームページ上にて公開する予定でございます。

以上をもちまして、令和6年度岐南町・笠松町総合教育会議を閉会させていただきます。
本日は皆様方にはお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。

以上